



しかはま自然観察会

のらえもん

『 人も 自然も みんな友だち 』

2025 年度

No. 2

2025.05.11

第2回活動 田植え体験とカイコの卵配布

風が無く、ほのかに暖かい絶好の田植え日和。
38名が一行になって、苗を植えていきました。
植えながら、素足で感じる泥と水の温度のちがい、
「ゲンゴロウ、見つけた！」と、生き物観察も。
息子さん運転する田植機に乗せてもらうサプライズ！
8列を、歩く速さで植えていく。
泥の付かない田植えを、初体験。
田植えのご褒美は、ビール工場。
ビールもジュースも、のどを気持ちよく通過しました。

1, 日 時：2025年5月11日（日）

2, 天 気：晴れ 気温24, 4℃

3, 場 所：宅間農園

茨城県常総市大生郷新田1558

4, 参加者：総数38 内訳 大人 22

専門 1

小学 8

幼児 3

スタッフ 4

5, 活動の様子

今年の田植えは、「令和の米騒動」の影響か、皆さんとても力が入っていましたね。
素足になり、苗をていねいに植えていきました。

- ・ 田んぼの面積 $30\text{m} \times 4\text{m} = 120\text{m}^2$
- ・ 参加者 38名
- ・ 時間 45分
- ・ 収穫予想 48kg

○ 田植機はスゴイ！

のらえもん38名で、120㎡の田植えをするのに、45分かかりました。

田植機は、残りの田（約1800㎡）を、なんと30分ほどで終了したのです。

さすがに「スゴイ！」と、感嘆するしか言葉がでません。

もし、のらえもんが手植えを続けていたら、終わる頃は夕方になっていたでしょう。

田植機の出現は、農家の夢でした。

私の家も家族総出で田植えをし、1日に1反から2反がせいぜいでした。それを雨の日も風の日も、一月以上続けるのです。

学校は1週間休みになり、子どもたちも重要な労働力でした。苗を運んだり、空容器を持ち帰りそこにまた苗を入れたり、しっかり役割分担がありました。

唯一の楽しみは、休憩のときにおやつを配るときでした。小さなおもちゃのついたキャラメルを配るのですが、おもちゃを先に抜き取って自分のものにしてしまうのです。

甘い物の少ない時代です。田植えの疲れと緊張感が、甘さとともにとけていくようでした。

畦に座って休みながら、父母が「誰か、田植機というもんを、つくってくれないかな？」と、よく言っていたことを覚えています。

全ての家の田植えが終わる6月、地域（私の頃は、普通に“部落”と呼んでいた）あげての運動会が始まる。

3部落で、全校児童70名弱の僻地1級小学校だった。そこに全家族が集まるものだから、観客はあふれ、応援の熱気がすごかった。お昼は家族そろってのお弁当に大人は酒が入り、屋台も何軒かでていた。

最後のプログラムは、3部落対抗のリレーだ。小学生から大人へとバトンをつないでいくのだが、半端でない盛り上がりになり、結果でおおいにもめることもあった。

運動会はハレの日で、田植えの疲れと植え終えた喜びを、一気に昇華していた。

田植えをしない限り収穫には結びつかないのだから、よほど嬉しかったのだろう。

○ 田んぼの生き物

今回は、わずかにカエルとゲンゴロウ・タニシを見つけるだけでした。

去年は、ホウネンエビを見つけたのですが・・・。

アメリカザリガニやヤゴ・ミジンコなどはみつきませんでした。苗が育ち、水の深さが安定してくる頃には、ミジンコなどの小さな生き物がたくさんわいてくるのでしょね。

タニシは田螺と書き、陸の貝だ。小学生の頃の田んぼには、ゴッソリいた。

田んぼの水口には簀を敷いて、土が崩れるのを防いでいる。その簀を持ち上げると、オケラがいて、その下の水たまりにはタニシが大小ゴッソリいた。大きいタニシを集め、泥を吐かせて、茹でるとおやつができた。小さな用水路には、ドジョウ・アブラハヤ・クチボソなどの小魚が沢山捕れた。小魚は、ニワトリのエサとして与えた。畦には、カエルやヘビがたくさんいたことを覚えている。

○田植機の歴史

1, 直まき 種を、直接田んぼにまいていく。

2, 移植栽培 苗を育て、その苗を田んぼに植えていく。

3, 田植機の登場

○ 明治時代から研究は始まっていた。

○ 1950年から、研究が本格化

○ 1964年、初めての田植機

○ 1969年、今のマット苗用田植機
現在の方式がほぼ確立

○ 1970年代、苗を育苗箱で育てる技術

○ 1980年代、乗用田植機
歩速の1, 5倍

○ 宅間さんの田植機 乗用田植機 8条植え
田植え・除草剤散布・肥料散布を同時に行う
歩速は調節できる

6, ふり返りの感想

○ 程よいお天気で、1日、気持ちよく過ごすことができました。

ビールも、美味しかったです！

参加させていただき、ありがとうございました。

「まあまあ楽しかった！」と、息子より。

田植えして ビールが飲める 楽しみだ

第5中1年

母

○ 今日、田んぼで、カエルをつかまえました。

田植えは、むずかしかったです。

田植えで いねうえないで カエルをおう

伊興小3年

○ 今日は、久々の田んぼのぬかるみを実感できた。

また、田植機に子供を乗せてもらい、いい体験ができたと思う。

足重い 腰をかがめて 稲うえる

父

- 天気の良い中での田植えは、気持ちよかったです。

苗を田んぼに植えるのは、難しかったです。

田植機があつという間に苗を植えていて、機会のパワーはすごいと感心してしまいました。

母

- 午前は、田植えをしました。

水はぬるいのに、土はつめたく、不思議なかんじでした。

午後は、Asahiの工場見学に行きました。

酒をのみたい！

しばし待て 雪の降る日に 酒盛りを

HAL 東京 2年

- きょうは、たうえでうえるのがたのしかったです。

たうえで、かえるをつかまえるのがたのしかったです。

スーパードライの工じょうけんがくで、ジュースをのんで、

みんなとたのしいことができてうれしかったです。

年長

東伊興小2年

- 今、注目のお米。

値段は高くなっていますが、農家さんに（利益が）渡っていると良いなと思うほど、大変な作業・工程だと思います。

米づくりだけでなく、環境にとっての田んぼの役割も、毎回考えさせられます。

いただいた稲も、蚕も、大切に育てていきたいと思います。

米作り 人も環境も 作ってる

鹿浜こども園

- とても良い天候の中、今年ものらえもんの皆さんと田植えをすることができ、嬉しく思います。

このような体験をすることができ、古高先生・のらえもんの皆さん・宅間さんに感謝です。

田植え後も、子どもたちは生き物をつかまえたり、泥遊びを楽しんでいました。

ありがとうございました。

田んぼの中 大はしゃぎする 子どもたち

本木東保育園

- 五月のさわやかな風を感じながら、

素敵な時間と体験をさせていただきました。

（宅間様が）いつまでもお元気で、素晴らしい活動を続けていただけたらと願っております。

ありがとうございました。

やわらかな土の感触心地よく五月の風に心踊る

加賀保育園

- 久しぶりに田植えに参加させていただきました。

素足で入る田んぼの泥の感触、とても気持ちよかったです。腰が痛くなかったら、もっと楽しめたのになあと思いました。

田んぼにいろんな生き物がいて、それを追いかける子どもの姿を見て、「いい風景だな。これからもこの環境が続くといいな」と、思いました。

ありがとう お米を育てる みなさんへ

加賀保育園

- 今日、人生で初めての田植えをやらせて頂き、とても楽しかったです。

実際に体験することが出来て、お米を育てる大変さと現代の技術（田植機）の進歩に驚いていました。

また、ビール工場にも行け、本当に良い経験となりました。

ありがとうございました。

はじめての 田植機に乗れて 楽しかった

加賀保育園

- 久しぶりに職場の仲間たくさんと参加でき、大人の遠足のように楽しかったです。令和の米騒動で、お米の大切さ・米農家さんの大変さ・・・ご苦勞を、いつも以上に感じました。

ありがとうございました。

PS アサヒビール工場がリニューアルされていて、感激しました。

田植機に 乗って感じる 田んぼ風景

加賀保育園

- この経験を、園の子どもたちにぜひ味わって欲しいとおもいます。

全身で田の泥を感じて、実際に稲を植えて、このようにお米ができることを知ってほしいです。

風わたる 田植え後の さわやかさ

加賀保育園

- また、この足で泥の感触を味わえたことに、喜びを感じました。

みんなが笑顔になり、機械での作業のすばらしさも見守りつつ、やはり田植えの楽しさが貴重な体験であると、感じました。

子どもたちの笑顔が、なによりですね。

回数を重ねて楽しい のらえもん

この稲が 大きく育つ 日が楽しみ

いりや第一保育園

- 久しぶりの参加、しかも一人で・・・。

でも、楽しかったです。

田植機も、おしゃれでカッコ良かった（運転手も・・・）。

米不足 豊作願い 田植えする

- 腰かがめ苗をつかんで田植えするお尻の先には白い雲がわく

- 苗3本願いを込めて土に差す稲穂の波がまぶたに浮かぶ

古高 利男